

往復書簡・学校を語りなおす

「学び、遊び、逸れていく」ために

◎ 伊藤哲司、山崎一希著

どうしようもなく存在する学校の中で生徒も先生もストレスを溜め込んでいる。ならば、学校の仕組みを変えていこうということになるが、それは現実的ではない。そこで社会心理学者とローカル放送局のディレクターという二人の著者が考えたのが「学校を語りなおす」ことであつた。「いじめ」という問題は他者交流・他者理解という視点で考えると、「異なる他者と出会うことで、自分を知ることができる」と生徒たちに話せるのではないだろうか。「学校格差」はなくすべき課題であるが、これを学校の個性Ⅱそれぞれの学校が抱えるローカルな問題として考えると次には、その個性を活かした解決策がみえてくるのではないだろうか。また、「心を育む」という課題については、子ども心の問題は基本的に大人心の問題なのだから子どもだけを対象にすべきではなく、大人も心の問題に敏感になって欲しい等々、学校を面白くする議論が満載。(B6判・256頁・2200円・新曜社)